

No. 84

# 公民館だより

平成3年8月  
宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## 社会道德

館長 小室 哲 寛

私達をとりまく社会生活の中で、今の人達は公德心が薄いか、自分さえよければというような人が多いとか、マナーを知らない若者が増えたとか、というような声をしきりに耳にするのであるが、これ等をふまえて今回は、良識ある社会人である為の基本とも言うべき社会道德について述べて見たいと思うのである。

現代社会の市民として守るべき社会規範にはいろいろな類のものがあるが、これ等のあらゆる規範は終局的には社会道德と

いうことになると思うのである。

道德も社会を前提としてなり立つものであるので、言わば社会性を伴っていると言える。誰にでもあてはまり、誰もが共通して持っているなければならぬものであるし、又自分もその分担を担っているという自覚が必要となつて来る。即ち人々が善良な近代的市民であるためには、社会道德観と社会連帯意識を、

夫々が或る程度高い水準で持たなければならぬのである。ところが我々の回りには、この社会道德意識が特に低いと思

わざるを得ない状況が実に多いことであり、前述の識者の嘆くところである。

しかしこれは由良の地域に限ったことではない。日本人全体の公衆道德の欠如が、国際社会の中でも言われており、日本人旅行者の「旅の恥はかきすて」の言動などが更に拍車を加え、残念ながら今やこれが国際的に定評になっていっていると聞いているのである。

それでは現代の日本人が何故社会道德意識が薄いか。我が国は古来から礼儀を重んじ、封建時代からも道德心は高く、市民も伝統的に作法を守つて来ているのに、今何故この様な道德心の希薄な市民が多いのか。

この理由は、一般的に言われていることでは、日本社会は儒教の影響等により、長上を敬うという美德が、忠孝の精神と共に道德の基本であった。主従の

の意識は高かった。しかしこれは、縦の関係の道德「縦の道德」であり、この縦ばかりを尊重しすぎて来た為、市民間の「横の道德」が未成熟のままになって来ていることがあげられている。

この横の関係が極端なものは、他人に干渉されたくない。又他人に干渉したくないという閉鎖的な生活態度であり、公衆道德を民衆の中に育て上げるのを妨げて来たものである。

更に重要なことは、戦後の大きな変貌により、価値観の分裂、思想の対立、世代間の思考の相違等あらゆる要素が入り混り更に複雑なものとしているのである。戦前的な人間観を尺度にして、戦後の複雑巨大な大衆社会の中で育つた青少年の心情やマナーを批判するだけでは、この問題は解決されないと思うのである。この若者達は旧い世代の持つていなかった近代社会の合理的思考をもって育つて来ている。この二つの世代の相互信頼

の秩序は確りと守られ、道德

により、戦前の価値観と戦後の価値観をつなぐ普遍的な良識を身につけることが急務であり、その上に立って国際的視野より見た社会道徳を考えて見る必要があるのではないかと思うものである。

この様な中で現代社会に生きている人達が、世代を越え歴史的過程を越えて、今の私達の社会を守っていく為の規範である社会道徳を、皆が考え、一人ひとりが良識に照らして実践していくことが最も肝要と思うものである。

次にこの社会道徳の意識を高めようとする上の隘路となつていゝものは何かについて探つて見ることとすると、日本人は社会道徳意識は低い、これを職業に立ち向う姿勢から見ると、職業人としての倫理感はそう低くはない。日本人は勤勉でよく仕事に励むという評価があり、今日の経済大国を築き上げた国民性である。

これは何故なのか。神沢惣一郎の「現代生活の思想と倫理」によれば、これは職業人としては職場で、自己の運命に対する配慮感。即ち自分の運命の盛衰を真剣に考えて、一生懸命に取り組んでいるからであるというのである。

又一方家庭においても、自分の生活意識は真剣である。家庭生活にも、自己の現在および将来の運命の盛衰にかかわっているからである。

これが社会生活においては、自己の運命の盛衰や利害にはほとんど関係しない人々と接触しているの、とかく社会道徳を軽視する傾向にあると言っているのである。

更に神沢氏は、市民道徳や公衆道徳の成育しない根源は、家庭本位主義、家庭エゴイズムにあると指摘しているのである。

この社会道徳軽視の原因は運命に対する配慮感の軽重にあるという論と、社会道徳の成育し

ない根源は家庭エゴイズムにあるという論は共に我々に大きな示唆を与えるものである。

社会道徳の意義を高める上の乗り越えなければならぬ壁は、やはり自分に内在する家庭エゴイズムと社会生活軽視である。

先づ誰しもが持っているであろう家庭エゴの要素を、自分の心の中から見つけ出し、それを客観的に分析し、あたかもベルリンの壁が取り除かれた如くに、家庭エゴの意識が、社会道徳の意識と通い合う扉を開く努力が必要と思うのである。家庭エゴと言っても一概に悪いばかりとは限らない。家庭を大切にしたいという前述の生活意識の面は当然大切に、これと裏腹の閉鎖的な心の壁を築いているエゴイズムを、他人の為、社会の為に開くべきところは開き、良心の通い合う社会を築き上げたいと思う心切なるものがある。

この意識の上に立って、更に皆が自分の真剣な生活意識や、

職業に対する努力と同じ程度の自分の全霊の情熱を、この地域社会―私達の生れ育ち又親子共々に現実に恩恵を受けながら住んでいる、かけがえのないこの地域社会―の為にそとくとき、おのずから社会道徳は守られ、社会への連帯意識が湧いてくることを確信するものである。

道徳というものは、社会規範ではあるが、それ自体強制力を持たないものである。しかしながら、職業の倫理で経済大国となり得た国民であり又地域の発展を希って止まない善良な市民なのである。

私達の力強い連帯感により自発的な社会道徳意識の高揚のため、あらゆる場で啓蒙し合い、自己の意識の中にある理性と良識に基づく自律の輪を拡げていく精神活動を推進していくため、各位の協賛を祈って止まないところでありませう。

# ご挨拶

主事 山下清一

このたび、図らずも船野主事の後任として由良地区公民館の

仕事をさせて頂いたことになりました。誠に非力なものでござりますが皆様の温かいご指導を賜りますようお願いします。

暑い夏が来て、お盆が近づくと毎年思い出されるのが、お盆の野球大会の思い出です。

戦後は野球で始まった、と言うのは少々オーバーかと思いますが、娯楽に接する機会の乏しかった時代であり、お盆の野球大会こそ皆が心待ちにしていた由良地区あげての大イベントでした。グラウンドの選手と応援団、観衆とが一体となったあの熱気、選手の内臓の鼓動が聞えるようなあの緊迫感、を忘れることが出来ません。昼食をはさんだ延

長十五回戦も熱い思い出の一つです。

また、この日は帰省者、在郷者が選手として、また観衆として久し振りの出合の場であり再

# ごあいさつ

梅雨空をやぶって、暑さが日増しに加わって参りました。

私、

このたび一身上の都合によりまして、公民館主事を辞任いたしました。先達との運営審議会で承認をされ、ここに退任をさせて頂いた

会を約す場でもありました。

以来四十数年、先輩諸兄の熱意で今日まで引き継がれて来ましたこの大会が盛会となること念じつゝ、今一度あの雰囲気に戻りたいと、欲深い遠い郷愁に耽っています。

由良をこよなく愛するもの一人として、公民館の益々の発展を願っています、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

船野和雄

きました。在任中は各方面の皆様にご援助とご指導を賜りまして、本当にありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

在職の二年間、何一つなすことも出来ずご迷惑ばかりをおかけいたしましたことを深くお詫

び申しあげます。

しかし、公民館の方はお暇をいただきましたものの、また他の方でご厄介をおかけすることになり、自分の力不足を承知しながらお世話になることになりましたが、どうかこれまで以上のご指導とご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の生活と文化を高める公民館がますます発展いたしますことをお祈りして辞任のご挨拶といたします。



平成三年度  
由良地区公民館職員名簿

運営審議会委員

(順不同敬称略)

由良小学校長 松本 師正  
 脇自治会長 浜本喜代治  
 宮本自治会長  
 市議会議員 中西孫兵衛  
 浜野路自治会長 小室 哲寛  
 港自治会長 川崎 利晴  
 下石浦自治会長 岸田 六郎  
 上石浦自治会長 野村 政美  
 市議会議員 山下伊左衛門  
 前公民館長 小松 忠衛  
 学識経験者 四方 寿朗  
 小学校育友会長 大森 章弘  
 中学校育友会副会長  
 婦人会長 升田 栄二  
 老友会長 中西 晴子  
 子供会連絡協議会議長 中西吉之助  
 職員 小室 哲朗  
 公民館長 小室 哲寛  
 主事 山下 清一

分館長

脇

松林威佐雄

山下 春代

文化部

八月十四日

宮本

山口 正憲

講師 文化部

中西 俊夫

浜野路

中西 孝

小谷 一郎

盆踊り大会 八月十四日

港

山田 常治

体育部

中西 俊夫

下石浦

山田 康秀

小室 文雄

北野 薫

上石浦

野村 孝行

瀬戸野吉也

岸田 剛

幹事

文化部

森川耕一郎

同和学习会(婦人会と共催)

一月十九日

部長

奥野 彰

同和学級

二月二日

副部長

竹田 茂

土曜座談会

二月十六日

中井 治彦

中西 清治

史跡めぐり

年三回

榊田 益一

岸田 博司

文化財保存会

随時

田中 一雄

新宮 鶴雄

公民館だより発行

随時

酒田 清

中西 晴子

歴史の館

七・十二・三月

山下 良一

大森婦美子

ネットワーク事業

年間

体育部

矢野 善紀

球技大会(野球・ソフト)

年間

部長

浜崎 利雄

区民運動会

八月十四日

副部長

玉垣 泰子

市民駅伝

九月一日

〃

中西 隆光

市民綱引き大会

十一月三日

前畑 澄男

山田 忠雄

一般男女

十二月八日

山元 久紀

岸田 秀樹

バレエボール大会

二月二日

岸田 国彦

川崎 美幸

フィットネススポーツ教室

毎月第二水曜日

岸田 剛

木谷 照子

野村マエ

千坂 則子

上田 町子

森野千代子

上田 町子

野村マエ

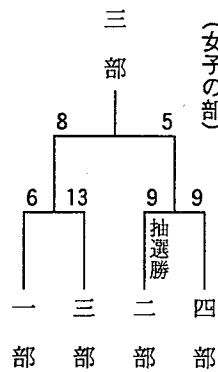


# ソフトボール大会 六月八・九日

## ウーマンパワーが爆発

### 女子ソフト・三部が優勝

二十数年ぶりの女子ソフトは  
大方の危惧を吹きとばし、好プ  
レー珍プレーをおりませ、熱戦  
を展開、パワーにものを言わせ  
三部が乱戦を制しました。



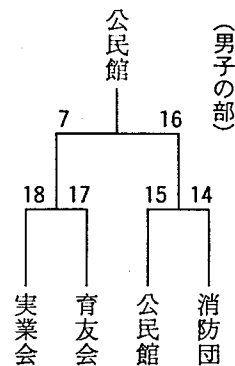
### 男子は、公民館チーム

新装の照明、グラウンドでは、  
試合前から熱気ムンムン、女子  
ソフトへの関心が昂まりました。  
観衆の大きな声援を受け、和気  
霽々、快プレー、珍プレーの連  
続で、抱腹、笑顔そして汗の中

で記念すべき大会を無事終るこ  
とが出来ました。皆様のご声援  
有難度うご座居ました。

## フィットネス教室に参加して

中 西 巴



昨年十二月より始まったフィッ  
トネス教室「軽スポーツ」に参  
加する。孫が出来てから気分的  
に老けこんでしまいうでこれ  
ではと思い始めたフィットネス。

市教委の方の指導でショートテ  
ニス、ソフトバレーボール、イ  
ンディアカ、グラントゴルフ、  
ペタンクボール等。  
まずストレッチ体操で体の筋  
肉を伸ばす。自分で無理なくす

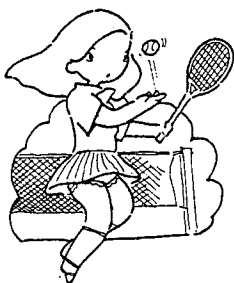
るようにと教えてもらいほと  
んど体が軽くなる。

三月より由良小学校にもナイ  
ター設備が出来てからグラウンド  
ゴルフを夜外で指導してもらっ  
ています。六人制で、色別のス  
テックとボールをもち八ホール  
を廻る。ホールへ回数少なく入  
ればいいのですがなかなか思う  
ように打てない。少し力を入れ  
ると打ちすぎたり、とんでもな

い所へ打ったりホールインワン  
で入るのはまずない。せめて二、  
三回で入れればと頑張るのです  
がなかなか。空ぶりをしつづつ  
けたり笑いの中で時間はたつ。  
ゲートボールをしておられる年  
輩の方はさすがにうまい。若い  
人から年輩の方まで幅広く出来  
る軽スポーツ。

体の健康ばかりでなく、スト  
レス解消、心の健康にもなりま  
す。これからもむし暑い夜をさ  
わやかな風の中で熟年の方もや  
る気を出して、いい汗かいてみ  
ませんか。私もともすれば晩酌  
に手がいくお人の重い腰を上げ  
させ細く長く続けたいと思いま  
す。

公民館役員の方、市教委の方  
お世話になります。



## 府婦人スポーツフェスタバル

## 大縄跳びに参加して

有 本 仁 美

六月二日、その日は平年より早い梅雨入りと思われる程に激しい雨が降っておりました。

京都府婦人スポーツフェスタバルが宮津市市民体育館に於いて盛大に開催され、府下各町村の婦人会各チームが遠方よりバスを連ね続々と会場に集合して参りました。府大会ともなれば、二階応援席はびっしりと満員で集まってきた会員の横顔には、自信満々。今日の日のために家事を見事にパーフェクトにこなしたこのフェスタバルにそなえ、それぞれ自分の婦人会の優勝を信じて参加している様に見え、私どもががんばらなければと思いつても何か気おくれを感じる程でした。

開会式後競技場においては次々に熱い闘いが繰り広げられていきます。婦人集団の燃えたつパワーのすごさに会場は熱気でいっぱいでした。そろそろ私達大縄跳びの出番です。昨年の宮津市婦人フェスタバル90で大会最高記録をうちたてた榮譽ある由良チームだけに心臓の高鳴りは最高値に達しています。

さあ十五人のメンバー堂々の入場です。足並そろえて一同行進し、整列の場所がまた来賓席の真正面。応援の方々も大勢がかけつけてくれ、口々に黄色い声援を送っていただき、私達はそれを受けて、一層勇気が湧いてきた感じでした。

ルールは十五分間に三回跳ん

で一番よい記録が残ります。練習を重ねたとはいえ、体は緊張気味で半凍結の状態です。前の人の背中も心なしか硬張っているかの様に見えます。さあ！始まりです。

長く伸びた縄を持つ人の第一声「いくで！」タン：タン：「一回！」十三人一斉に二十センチ高くなる。おもいっきり足を跳ね上げ後ろへ折り曲げる。「二回！」ペースはちょうどいい。「三回！」横目で応援団の真剣

な表情を伺う。「四回！」リズムにのって来た。「五回！」より一層高く跳びはねる。八回、九回、十回！まだ十回、まだまだひっかかってはいけない「十一回、十二回……」、ズン、ズンと着地の足がだんだん重くなってくる「十七回、十八回……二十四回！」

あゝ足が重い体の芯に響く、前の人ほどどんな表情をしているのか。「二十五回！」頑張れ！だけでもう足の柔軟性はなくなってしまった。 「二十六回！」みんなすごい、よく頑張っている。失敗するわけにはいかない。「二十七回！」足に鉄鎖をつけられたようだ頑張るぞ！と思う間もなく、突然リズムがパタッと止まった。同時に一斉に揃っていた人波が急に崩れ落ちた。みんなその場にうずくまり十五人は今にも飛びだしそうな心臓を押える。あゝ終わったのか！残念乍ら昨年の記録には遙かに及ばない。休憩。



暫し跳べそうにありません。よし今度こそと二回目勢いこんで跳びましたが力みすぎたか三回で終ってしまふ。残念。

三回目、もう失敗の余地はありません。呼吸を落ち着けてさあ開始「一回！二回！」メンバー、応援団がひとつになつて三十回の目標をめざして頑張っている。チームプレーであるからこそもう一回！もう一回！体力の限界。「二十八回！」目標にあと一步のところをついに脱落。結果は残念乍ら二位。

みんな一生懸命跳んだ後のすがすがしく、さわやかな汗が流れ落ちる。スポーツならでは最高の美しいものを感じました。日頃主婦である私達は、忙しいながらも平々凡々と日々を送っております。この短い時間ではあったが、全員が目標に向つて限界を越えるばかりの力を集中させたということ、これは何ものにもかえがたく本当にすばらしい有意義なことであつたと思

います。チームプレイは心も体もひとつになつた時、大きな目標に届くことが出来るものと思ひました。

スポーツに限らず人間の和は、すばらしく美しいものであるということをしみじみ感じ、この婦人フェステバルの一日を通し

# 初めてのナイターで

玉垣泰子

て沢山のものを学ばせていただきました。



私達が夢にまでみて待ち望んでいたナイター設備が完成した。六月八日始めてのソフトボール大会が開かれる事になった。この地区もそれぞれいろんな形で練習を積み、バッチリやる気十分の選手が揃つた。そして家庭の主婦又親と子、とてもなごやかな雰囲気です試合が始つた。初めは、少し緊張気味だった皆んなも、試合が進んで行くに

つれ、緊張もほぐれ、すばらしいプレーが続出、思わず「うまい」と手をたたいての声援、本当にどの試合を見ても見ごたえがあり、煌々とした照明の下での試合はほんとうに夢の世界でのプレーのようだった。そして何もかも忘れ、夢中になつていく選手と、一生懸命応援をして下さった皆さんとが一つになつてのあのなごやかさ、ほんとう

に楽しいふんい気のうちに試合は終わりました。

このような大会を、いつまでも長く続けて地域の皆さんが一つになつてどんなことにでも、とり組んでいけば、すばらしい由良になるのではないでしょうか。ほんとうにスポーツを通じての人間の和だと思ひます。

私も体が続くかぎりこれからもいろいろなスポーツに参加して身も心も若返り、健康を保つて行きたいと思ひます。由良のお母さん達、自分の体に合ったスポーツを見つけて、若返ってみませんか。



## 地域が育てる地域の子供

由良小学校PTA会長 大森章弘

常日頃から由良地区の方々に  
は子供の教育につきましても何か  
とお世話になり大変ありがたく  
思っております。近年急激な社  
会変化が進む中で、子供を取り  
巻く環境の質的变化には目まぐ  
るしいものがあり、日本の子ど  
も達の一部の問題行動は多様化  
の傾向を示し、大きな社会問題  
となっております。このことは、  
『確かな見通しをもって主体的  
に生き抜く、国際性豊かな、心  
身共に健全な児童・生徒の育成』  
を願うPTAにとっては見過せ  
ない問題です。

これらの深刻な実態が生じて  
来た要因と考えられることは、  
一、家庭における教育的機能が  
衰えている。二、地域社会のも  
つ教育的機能が衰えている。三、

子育ての経験や発達についての  
知識が乏しく、また社会的には  
子供集団が形成され難いため  
子供の自立する力と自治能力が  
衰えていること。四、自然や労  
働について体験する機会が乏し  
いこと等ではないかと思えます。

一般的に「地域社会のもつ教  
育的機能」と言われる内容を上  
げると「様々な年齢や世代の人々  
によって形成された地域社会の  
秩序ある人間関係にふれ、交流  
することによって、それらの人々  
の経験や教育的配慮を通じて生  
命を守られ、働きぶり、暮し、  
生き方を自分のものにしてゆく  
ようなこと」。

「地域の自治的な機能や具体  
的な活動に身近にふれ、体験し  
ていくことによって子供達の生

活認識や社会観を確立していく  
こと」「地域の人々がもってい  
る知恵や技術、その他様々な歴  
史的遺産を実感し体得すること  
によって、また、地域の文化的・  
歴史的環境によって、子供達は  
祖先が築き上げた文化と歴史を  
学んでいくこと」。

「地域の自然環境は、子供達  
に変化に富んだ遊びや活動の場  
となり、身体を鍛え、創造性・  
冒険心を養い、科学的な教材と  
なること」。

これらが統合されて、地域社  
会の教育的機能が形成されて来  
たと思えます。

子供は出生以来、一方では大  
人から様々な援助や影響を受け  
ながら、他方では、家庭・学校・  
地域社会の中で、大人・青年・  
仲間と主体的に係りながら、先  
人達が築き上げた文化遺産を学  
び、体験し、継承して来たので  
す。更にその過程を通して、次  
代を担う社会人としての資質を  
磨き成長して来たのです。

しかし平成の今日、職業の多  
様化や経済のソフト化などによっ  
て、大人の働く姿も捕えにくく  
なっています。過密や過疎が進  
む中で、一般的には住民の連帯  
感も薄れ、地域ぐるみの共同作  
業や活動も容易でない地域が多  
くなり、大人と子供も「地域」  
や「地域生活」を実感する機会  
が乏しく、全人格的な結びつき  
が出来難くなっているのが現状  
でしょう。

このことは、子供が様々な人々  
への愛情と個人の尊厳を知る上  
でも、また正しい生活認識と社  
会観を育てる上でも大きな障害  
要因となっているのではないで  
しょうか。

自然環境の悪化や、子供の遊  
び場の減少と時間に追われる様  
な生活の仕方は、子供から変化  
と創造性に富んだ遊びを奪い、  
地域の中での子供集団の形成を  
困難にしています。

子供は人々の生き方や暮らし  
ぶりに触れたり、参加して共鳴



し、同時に仲間との集団活動を通して、社会の一員としての力を培って行きます。子供が身につける自律と自立は、集団の支えによって可能となるものだと思います。

今私たち親や、地域の大人にとって、子供が成長発達を遂げる上で、地域社会のあり方が大きな影響を及ぼすということの自覚が大切です。大人自身が住みよい地域づくりを目指して努力しているとき、それは同時に、大人の生活する姿を通して子供に社会生活の仕方を教えている時でもあると思います。「子供は親の背をみて育つ」という言葉を言葉のみにせず、今こそ大人社会が率先垂範公衆の規範を遵守し、道徳心豊かな社会作りの課題を、遂行しなければならぬ時期が到来していると信じます。地域の大人自身が、地域でのふれあいを見直して生々とした地域生活を作り出すために努力し、子供達に豊かな自然環

境・文化環境と子供集団を組織し、残して行くことが是非とも必要と思います。

将来を考え、また子供達が今日おかれている状況を考えるとき、子供達の健全育成がいかに

## 痴呆症の母は幸せ宇宙人

老友会 平 間 克 己

橋風子（橋幸夫人）の手記に感動しましたので、そのまゝここに紙面を借りて紹介します。

父に先立たれた母は独り暮らしをしていたが、昭和五十九年の暮れ頃から長年面倒を見てくれたお手伝いさんを疑うようになり「最近物が無くなるのは、お手伝いさんが盗んでいるに違いない」と言うようになりましたが、お手伝いさんは誠実な方でそんな事をする方ではありません。今考えればそれがボケの始

大切な今日の課題であるかを痛感します。学社連携を密にし、私達が次代を託す二十一世紀に生きる子供達の健全育成について尽力しなければとあせる毎日です。

一緒に暮す事により、私が心をきれいにし、あげたいという願いが強かった。

嫁姑の問題も母自身がさんざん葛藤したあげくの最後の嫁が私でしたから、私と母の関係は比較的いゝ関係でした。母がボケた時は、あんな良いお母さんが何故かという気持ちでした。

引越した時は何事もありませんでした。暫くして、「この家に泥棒がいる」と言い始めました。夜中に自分の持ち物を隠したり、急に入れ歯やコンパクトがないと言って、それが見つかる迄イライラする状況で、なくなつた物を探すのが私の日課でした。母は「どうせ持つて行かれたから、探してもムダよ」と言いながら、探さずにいると、

主人は九人兄弟の末っ子で母の一番のお気に入りなんです。それに母は「私達が気づかない事を教える為に来て下さった」という受け取り方を迎えました。ですから母の疑い深さを

「私がいながら、探さずにいるのに冷たい人ね」と言うんです。こうした探しが二年間続きました。入れ歯を上下別々に隠したり、又下着がないと言うので調べてみたら、自分で何もはいていた

り、今思うと可愛いおばあちゃんという感じでした。

それから又二年程たつと妄想が強くなって、ありもしない事を言い始めました。「風子<sup>なほ</sup>さん、さつき幸夫が浮気をしていたよ」と突然言い始め、それからは主人の浮気話ばかり。

暫くして幻覚症状が出て来ました。或る日突然母の部屋から叫び声が聞こえたので主人と行ってみると、母が真っ青な顔で「部屋の中に人がいる」と言い始め、それからエスカレートして「人が襲ってくる」と言うようになりました。私はこの時、初めて母は普通でないと思った。母が幻覚と格闘するのか、寝巻はほどけ見るも無残な姿で、中でも悲惨だったのは主人が襲ってくる幻覚でした。幻覚とはいえ、実の息子に襲われる気持は地獄の苦しみだったでしょう。「幸ちゃんが夜中襲わないように言っただよ」と言われた時は目頭が熱くなった事もあり

ました。

幻覚の次は徘徊でした。或る日警察から電話がかゝり母を保護し送って戴いた事もありました。それからは、深夜母と手をつなぎ歩き廻り、夜中帰宅の主人と三人で手をつなぎ歩いた事もありました。母と嫁が手をつなぎ歩くなんて、すはらしい光景です。人は悲惨と見るか受け取り方は自由です。

次は下の世話でした。母は処かまわずウンチをするのです。或る時は玄関にしまつたので、「ここは玄関ですよ」と言つたら、「とても気持がよかった」とまるで子供のように無邪気な顔で言うのです。それから注意してもムダと思いました。お母さんを清める事は、自分を清める事になるのだと思うようになりました。私が母を見せていたどき、母の八十八年の生涯は、すごいなあと思えました。「生きる事は良い事ばかりでなく、辛い悲し

い事を乗り越えたればこそ、今此処に存在しているのです」というのが、母を見てきた、私の正直な感想です。自分より十年先二十年先を歩いている人は、それだけ素晴らしいんだ。という意識を皆が持つ事が大切ではないでしょうか。生きている年数

だけ辛い事もいっぱいあったらうに、又母の看護出来たのも、主人を始め子供の協力があつたればこそ。

お母さんは「私達を幸せにする為の宇宙人かも知れない」その母も昨年亡くなりました。「お母さん、ありがとう」

## 宮津市囲碁大会に参加して

中 西 衛

六月二十三日栗田区民センターでの公民館囲碁大会で、由良Aチームが優勝しました。Aチームのメンバーは、石井久由、大石俊雄、岸田勇、中西衛、渡辺嘉三郎の五氏、Bチームは今西秀夫、熊田良雄、中西国雄、西之上熊吉、山下良作の五氏でした。

例年正月の農協碁会とこの公民館碁会は一チームないし二チ

ームが参加していますが、いつも由良チームが優勝が準優勝をして居り、他チームから由良の人は強いからやりにくいなどと言われています。

由良囲碁同好会はこの外に正月碁会、四部対抗碁会、さなほり碁会、栗田との親睦碁会等を毎年行なっています。又毎月例会を二回日曜日にやっています。碁盤の前に座り、石を手にし

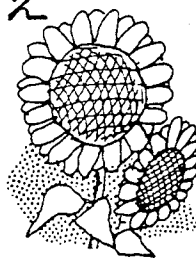
すと俗世間を忘れ、勝負に熱中  
します。全くすばらしいゲーム  
だと思えます。その対局相手の  
人間性、人柄がそのまま出て、  
囲碁は手談なりといいますが、  
まさにその通りです。

今年私が正月碁会で優勝し  
ましたので、ここに優勝カップ  
があります。第一回は昭和三十  
九年で山下庄兵衛氏が優勝と  
なっています。優勝者を書き出  
しますと大石俊雄氏六回、私が  
四回、谷口宥全氏三回、石井久  
由氏、竹村寛三氏、岸田勇氏、  
小室裕之氏、森口重晴氏、土岐  
卓吉氏、山下良作氏、渡辺嘉三  
郎氏、中西定蔵氏、田村忠光氏  
が各々一回となっています。ス  
ポーツと違い、年令差があつて  
も対局出来る事が囲碁の良さで、  
今は故人となられた中西定蔵氏、  
田村忠光氏、山下庄兵衛氏、前  
畑氏、秋田氏、山下伊作氏等々  
との対局が思い出されます。囲  
碁は勝負を競うものですが、プ  
ロセスこそが楽しいもので内容

がある碁は、勝っても負けても  
充実感があります。

私は由良の歴史をさぐる会、  
由良カメラクラブ等にも参加さ  
せていただいています。石浦

# 海水浴シーズンを迎え



由良駐在所 半 林 富士夫

## 一、はじめに

いよいよ海水浴シーズンに  
なり、静かな由良も一変して  
賑わい始めました。

私は、駐在所へ赴任し四回  
目の夏を迎えましたが、この  
シーズン中は、さまざまな犯  
罪が多発する時期でもありま  
す。

又本年度は、由良地区を  
〃由良地区盗犯防止重点地区〃  
に指定し、各種盗犯防止の為  
重点的に活動を実施している  
ところであり、地域住民の方々

の人、港の人、浜野路の人、宮  
本の人、同じ由良でも色々違  
います。趣味を通して由良の人々  
と交友を深めてゆきたいと思  
っています。

には、なにかと協力をしてい  
ただき、大変感謝している  
ところで。

今後も、由良から犯罪をな  
くす為にも、官民一体となり、  
連携をとりあい住みよい街づ  
くりをめざしていきたいと思  
っております。

夏特有の盗犯といえ、水  
着盗です。  
特に旅館、民宿経営のみな  
さん、宿泊客等の水着が盗ま  
れることが多い様です。

## 二、盗犯防止

## 三、水難事故防止

夏には、子供の水難事故が  
多発します。

次のことを十分守って楽し  
い夏休みにしましょう。  
・幼児からは、決して目を離さ  
ない。

・子供たちだけの泳ぎはさせな  
い必ず保護者や泳ぎの上手な  
人が一緒に

・流れの急な所(遊泳禁止区域)  
では泳がない  
・泳ぐ前はしっかり準備体操を

## 四、交通事故防止

夏は、子供たちが外で遊ぶ  
ことが多くなります。  
又マイカーを利用した行楽  
や帰省客が増えることから交  
通量が増加します。

特に、国道を横断、歩行す

る際は、十分注意する必要があります。あります。

子供たちに対しては、普段からよく言い聞かせて下さい。

△安全運転スローガン▽

●のせましよう

ゆとりという名の

同乗者

●車社会

歩くあなたも

その一人

●かえり道

あぶないかけっこ

ふざけっこ

五、最後に

由良地区盗犯防止重点地区推進委員を次の方々にお願ひしてしますので紹介します。

- 自治連合会長 中西孫兵衛
- 浜野路自治会長 小室 哲寛
- 協自治会長 浜本喜代治
- 港自治会長 川崎 利晴
- 下石浦自治会長 岸田 六郎
- 上石浦自治会長 野村 政美
- 消防分団長 中西 洋二
- 実業会長 有田憲太郎

民宿組合長 浜谷 正雄  
婦人会長 中西 晴子  
民生委員 山田 正美

安全協会由良支部長

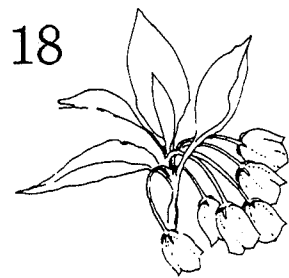
北野 誠治

子供会連絡協議会々々長 小室 哲朗

健康いろはカルタ

18

四 方 寿 朗



け 健康第一 ます禁煙

十代の喫煙は一般の予想をはるかに超えて広まっている。或る調査では中学生は勿論、小学六年生でも男子の半数以上がタバコの経験者だった。私の経験ではタバコをすってうまいといふのはうそ。ニコチンが体に廻ると、禁断症状が取れて普通の精神状態にもどるだけだ。ニコチンが切れると、直ぐまたマイナスの状態となる。

今の日本のように医療が丁寧になると、タバコの税収入より、

喫煙の害で起る病気の治療費の方がはるかに高つく。タバコの害は先ずその発がん性。或る調査によると、こう頭がんの死亡率は男性では、すわない人の三十二倍、肺がん四、四倍、いん頭がん三、一倍、食道がん二、六倍と続く。

がん以外にも高血圧、動脈硬化、心筋梗塞などの発病を促進し、タバコをすって体によい事は何もない。今の世の中もっと楽しく健康的なことがいくつらでもある。

ふ 夫婦仲よくむつまじく年をとると上原謙さんでも人が寄りつかなくなる。女性が強くなった現在、男性もどうかかしてられない。夫又は妻が死亡した後、残った方が後を追うようにして亡くなる率は、一般の人の十倍も高いという。仲よくとはお互いに相手の立場を尊重し合うことだ。

こ 恋しい人とお付き合い 不倫をせよというのではない。例えば美しい人に出会うと、大脳の受けたその刺激が間脳↓脳下垂体を経て体中に伝わり、各種ホルモンの分泌を促し、健康に役立つ、とかく日本では性はかくすべきもの、いやらしいものとして取り扱われてきたが、いくつになっても明るく健康的な異性との付き合いは、我々の人生を活気づけ楽しくしてくれる。人は死ぬまで恋心を失ってはならない。

# 夏夜のメルヘン

藤 本 史 代

つば広き麦藁帽子かぶるとき潮の音かすかわれのめぐりに  
 日盛りを白きパラソルさし歩む己が世界を小さく限りて  
 待つことも時には楽し冷房のききたる茶房にクラシック聴く  
 ストロ―にグラスの氷片遊ばせて浮遊していくわたしのころ  
 水蠟燭グラスに点るテーブルに夏夜のメルヘンひろがりはじむ  
 夕茜ひろがる空に漂わむころ透明の翼をつけて  
 終局は海原に注ぐばかりにて洋々として河口は暮るる  
 ゆるやかに夏暮れてゆく遠空に打ち上げられて不発の花火  
 闇に飛ぶ夢まぼろしの蛍光をせめて今宵は裡に抱かむ  
 散らばりて砂に光るものあり昨夜の銀河地にまい降りて

## 丹後由良ターミナルセンター竣工

由良地区に待望のKTR丹後由良駅が完成し、去る七月二日宮津市長を始め市・府の関係の方々のご出席をいたゞき、盛大な竣工式が挙行されました。

海水浴場にふさわしい、大小のヨットをイメージした近代的センスの瀟洒な駅舎で、由良岳の濃い緑に、三角形のヨットの帆の白い壁面が映えて、美しくシンボリックな容姿であり、訪れる観光客を必ずや喜ばせてくれると確信致します。



丹後の表玄関としての由良に、この様な素晴らしい駅が誕生したという事は、由良の誇りであり、今後第三セクターの駅として、地区ぐるみで守り育てていかなければならないと存じます。

こゝに、宮津市並びにKTRに深い敬意を表すると共に、この由良のシンボルとしての丹後由良ターミナルセンターが、今後益々繁栄していくことを祈る心切なるものがあります。

(小室記)



# 川柳

宮津番傘川柳会

雲仙の噴火火種のおそろしき

シロップの匂いで蟻の道がつき

磯田 栄

こぼれ落つみかんの花に思慕いくつ

選果機のミカンを人に置き変える

大森美智子

十指みなたわむれ合うて未来像

化粧回し四肢に賭けてる男意地

田村キヌエ

転落の軌跡に洒れている涙

点と点結べば夢が消えていく

飯沢 鳴窓

## 詩吟の同好会に入会して

岸 田 千鶴枝

今年も、また、夏休みがやって来る。

験することがある。

いつも思うことだが、簡単なことでも、『つづける』ということのむずかしさを、親子で体

朝夕の挨拶、衣服の始末、日記つけ、体操、ランニング、えさやり、勉強等、少しづつの積み重ねが、その子の性格や、家

のしつけ、大人や子供の性格等に身につき表われて来る。

この幼い時からの積み重ねの中の『つづける』ことの大切さは、なかなか簡単なようでも出来ないことである。

さて、この度、神心流詩吟の会、由良支部同好会のメンバーの一員として、お仲間に入れていただきました。

この会の中には、先に言う、十年、二十年と「続け」、コツコツとやっておられる先輩諸氏がおられ、私など、ヒヨコが「ピヨピヨ」となっているようなものです。

趣味や、スポーツ等、とにかく「続ける」ことが大切であるが、つづけられると言うことは、自分に合っているとか、楽しいものであるばかりではない。

そこには、言うに言えない苦労と、努力が求められます。それにうち勝つには、なんとくても今にはじまったことではなく、幼い時からの、いろいろの体験

が要素になり基礎となっていると思います。又、褒められることによってこの継続する勇氣や、やる気が生れてくると感じることもあります。

私等は、すぐ、いやになり、やーめたと言ってしまうがちなところが多分にあります。面白さを味わうまでには、ほど遠い詩吟が、うまくなることにこしたことはないが、吟の世界だけでなく、二時間の時を大切に、人との出合、吟との出合いの中から、教えられることが多くあります。「つづけてやれるといいが」と願っています。

まわりの人との和、自分の人間性を培う一つの糧となれば幸いです。

いろいろの趣味の会、サークル活動をされている皆さんに敬意を表するしだいです。



由良―歴史と文化財―(二)

山椒太夫伝説の周辺 その九

安寿・厨子王が、山椒太夫の譜代の下人になったということについては、公民館だより七七号に書きました。この譜代の下人という身分は、一体、どんなものであったかということ、少し考えてみたいと思います。

契機は、どのようなものであったにせよ、説経節の語るものを中心に、安寿・厨子王の二人は、直江の人買である山岡太夫の手によって買られたことにされていますが、山椒太夫がこれを買取り、その家に引取られることによって、山椒太夫との間には、主従関係が成立し、安寿・厨子王の二人は、山椒太夫の下人となったわけでありませう。主従関係というものは、主たるもの、命令には、従たるものは、これ

に服従・奉仕しなければならぬところをその出発点としております。これは、武士における主従関係にも見る通りであります。武士の場合は、金銭による買取りの対象ではなかったかも知れませんが、下人が、矢張り、主人(御屋形)の所有の財産であつたということは間違いありませんし、よい家来をもつことは、主人にとつても誇りでありましたし、その力であつたことも、その通りでありました。

大名・小名という呼称が示すように、武士の大名・小名は、名田をもつものであり、本来、領主的武士・庄司的武士がその出身階層であつたことがよくわかります。例えば、鎌倉武士の典型と言われた畠山重忠は、庄

司重忠といわれ、庄司身分の武士でありましたが、鎌倉御家人の中には、そういう武士は多かつた筈です。其処では、当然のように、所従の下人が、門田或いは、土居の内、堀の内、田畑の耕作に従事している姿がありました。勿論、そのうちには、御屋形から、なにがしかの田畑を給わつていたものもありました。安寿・厨子王は、山椒太夫に忠誠を盡す気持がありませんから、問われても、名前すら名乗るのを拒否しましたが、「三の木戸



のわき」に庵を作つてあてがわれていました。山椒太夫の屋形の場合、三の木戸まで作られていたものと思われませう。そうすると、三の木戸より内側が「内垣」と呼ばれ、屋形の垣の外が「トノガキ」であります。由良の地名にも「内垣」があることは、こういう意味があるのです。「トノガキ」の地名が由良にあるかどうかについては知りませんが、所によつては「殿垣」と當てて記されているのを見ますが、これは、矢張り、「外垣」と記すほうが、その意味では、よくわかるのではないかと思つています。

下人小屋―安寿・厨子王は、三の木戸わきに柴の庵をあてがわれていますが、一概に、下人小屋という、極めて粗末な建物のように考えてしまうのではなく、そうばかりとは言えないのではないかと思つています。平安時代の貴族、権中納言藤原宗忠が熊野に下向したとき、

切部荘の下人小屋に宿泊したということを日記に記録していません。他の公卿も、多くは、仮屋や下人宅を宿所としなければならなかったのは当然であります。身分的に言えば、宗忠は其処の荘司達の主人である領家筋を超える人物であった筈で、そういう人をしも、客殿・客間に講じ入れることなく、下人小屋に宿泊させているのである。ということは、下人小屋と言っても、当時の世相の中では、そういう身分の人士を宿泊させても、何等、恥ずかしいようなものではなかったのだという気がしています。勿論、屋形の中には、客間というべき、又は、客間として提供できる部屋はあったでしょう。しかし、それをしなかつた。荘司としてみれば、それを提供すべき筋というものを、充分考慮したことだと思います。それは、単なる身分・位階の高下では律しきれない関係、例えば、「平家物語」殿上の鬨討の

所に出てくる平家貞の行為が、「武士郎党の習ひ」として、宮廷においては「希代の狼籍」が容認されたし、「古事談」に見られる加藤成家が、白河院の禁制に背いても主人の命に従ったと平然としていたことなどに見られるように、「相伝の主と譜代の下人」の関係は特別な、事によつては、朝廷や院の権威さえも拒否する、そういう関係であるということを考えに入れておかなければならないのであります。荘司としては、屋形の客間を供すべき相手は、自分の主人である領家だけであつて、如何に位階が高い相手であつても、主人の宿泊に当てるべき客間を供することをしなかつたので、下人小屋といつても、そういう小屋であり、貴人の用に供しても、礼を失するということもものではなかつた、そういうものもあつたということ、理解しておく必要があると思うのです。山椒太夫と、その屋形におけ

る下人の関係は、平等・対等のものでなかつたのは当然であります。主従関係というものは、そういう特別な関係です。若し、下人たる者が対等に争論しようと思えば、先ず「主従関係」を断絶しなければならぬということ、言いかえれば、その屋形を逃げることに、具体的行動によつて主従関係の不存在を実現することが必要であつたのです。御屋形が、それに相応した態度をとらなければ、下人もまた、御屋形として奉仕することを拒否するのです。中世という時代は、「主人がうっかりしていたら、重代相伝どころじゃない。みんな逃げちゃう。なにやられるかわからない。」（「沈黙の中世」一二六―七頁）そういう時代だったので。だからこそ、「つねに伺候して家人・父子の礼をなす。子の父を敬まうが如く親しく仕える」（「新訂建武年中行事」六六頁）下人が求められたし、そういう下人を側近に召使

い、重用したのも、また、当然の事でした。武士社会における「家人」もそういう関係であつたのです。そういう関係が出来れば、主人（御屋形）は、親が子に対する如くに下人を信頼し、使役できるし、日常的に、側近に侍らせることができるのです。それが本来「さむらい」だったので。そういう何人かの下人（家人）達は、山椒太夫の持つていた職分に応じて分散配置され、その分担の中で「カシラ」だつ者に引上げられてい





くこととなります。その中には、石浦に設けられていた「セキ」に派遣されたものもあったし、その手付として、何人かの下人が、警固の衆として、その使役に従がっていたに違いないので

す。  
上石浦にある「サンシヨウダユウ」という小字の地は、この

関に配置された下人達の居住地であったか、或いは、其の地には、そういう下人達の屯るする建物（下人小屋）があった所と考えることは合理性のないことであろうかと思いめぐらしているのです。

（平三・七・一五 小谷）

（参考書）

東洋文庫版

日本古典集成版

平凡社刊

教育社歴史新書版

「説経節」  
「説経節」  
「沈黙の中世」  
「鎌倉御家人」

## 追悼

由良公民館

由良少年野球の大きいなる指導者大森寅一氏は去る六月七日七十九才で卒然として永眠されました。茲に謹んで哀悼の意を表します。

氏は由良少年野球創設以来野球を通じて少年の健全な心身を鍛える志から、自ら進んで指導に当られ、情熱を燃やして永年盡力され、その功績により京都府知事から表彰を受けられたこともあり、その後も今日に到るまで、老齢の身にユニホームをつけられ、校庭で少年の指導に励んでおられた姿には、深く敬意を表しておりました次第です。

野球と共に生きられた氏のご冥福をお祈り致します。

## 編集後記

今回より公民館だよりのレイアウトを大幅に変えることとなりました。

今まで文化部中西清治さんのご厚意によりワープロで原稿入力をお願いしておりましたものですが、この度「はとプリント」に依頼し、原稿入力、校正をお願いすることと致し、専門家の意見をとり入れ、より読み易く、親しみ易いものにと試みた次第です。

中西清治さんには、この公民館だよりを昭和六十二年から、当時ガリ版刷でありましたものを、ワープロ入力に改め、ご自分で多忙の中を一手に引き受けて下され、夜毎にコッコツとワープロを打ちつけて下さいました。ご労苦と情熱には、深く敬意を表します。

（小室記）

